

リスクアセスメント報告書 (事例1-1)

対象作業名 : 刈払機作業

実施者氏名 : ○○さん、△△さん、□□さん、◎◎さん

報告書作成日 : 平成○○年○○月○○日

No.	作業名	危険要因の内容	危険要因の洗い出し			リスク見積り(現状)		リスク評価(現状)	リスク低減対策	対策後のリスク見積り(予測)		改善に当たり考慮すべき事項	優先順位	
			災害に至るプロセス			可能性	重大性			可能性	重大性			
			～するとき	～したので	～(事故の型)になる			リスクレベル						
1	下刈作業	刈刃	腰バンドをしなくて手前を刈ったとき	刃が近づきすぎて	自分の足先を切る	△	×	4	①身長に合った操作桿に替える	○	○	1	①②③を同時に行う	1
									②刈刃で切れない地下足袋を履く	△	△	3		1
									③腰バンドを正しく締めて作業する	○	○	1		1
	刈刃	刈払い作業中、草が絡んで刈刃が止まり、手で取ろうとしたとき	刈刃が急に動き出したので	手を切る	△	×	4	①エンジンを止め刈刃が止まったことを確認してから取る	○	○	1	①②③は同時に行う	1	
								②刈刃の前方左3分の1で刈るようにする	○	×	3		1	
								③往復刈りをしない	○	×	3		1	
	刈刃	後ろの作業者が追いついて	近づきすぎて	同僚に刈刃が接触する	×	×	5	①後ろの人は、気をつけて15m以内に近づかないようにする	○	○	1		2	
								②物理的に近づけない作業配置となるよう間隔をあけて入る	○	○	1		1	
								③近づくときは、合図をして刈払機が止まったことを確認する	△	○	2		3	
	木片	刈払いするとき	木片が飛んで	自分の足に当たる	×	△	4	①飛散防護カバーを上にあげない	○	△	2	異常があったときは必ずエンジンを止めて確認する	1	
②すね当てをする								△	○	2	2			
③まず高く、次いで安全を確認して低く2回に分けて刈る								△	△	3	1			
小木片	刈払いするとき	小木片が飛んで	自分の目に刺さる	△	×	4	①飛散防護カバーを上にあげない	○	×	3	①②③は同時に行う	1		
							②ゴーグルやフェースシールドをする	△	○	2		1		
							③障害物に当たったときはエンジンを止め、確認する	△	×	4		1		
ハチ	刈払作業中	ハチの巣に足を踏み込んで	ハチに刺される	△	△	3	①アレルギー検査をする	△	○	2	必要な人は必ずエビベンを所持する	1		
							②防蜂ネットをかぶる	○	△	2		2		
							③ハチ取り用ペットボトルを設置する	△	△	3		3		
							④ハチの出やすいところに気をつける	○	△	2		2		
熱中症	刈払作業中	暑くて水をがぶ飲みして	足の感覚がなくなり歩くことが困難になった	△	×	4	①こまめに休憩をとる	○	△	2	①②③は同時に行う	1		
							②涼しいところで休憩する	○	△	2		1		
							③水とともに塩分を補給する。スポーツドリンクを飲む	○	△	2		1		

同僚が失明した痛々しい事例から出された

対策後のリスクレベルを確保する方法を具体的に示す
 ①対策後に発生する別の新しいリスクに対応する事項
 ②残留リスクが増大しないように考慮すべき事項

リスク低減対策は、検討の順序に従って考える
 ①危険作業を廃止。作業のやり方・機械・道具等を変更
 ②安全装置、保護具等の対策
 ③教育等による人材対策

リスクの評価基準

災害の可能性

可能性ランク	記号
かなり起こる	×
たまに起こる	△
ほとんど起こらない	○

災害の重大性

重大性ランク	記号
極めて重大	×
重大	△
軽微	○

リスクレベル

リスクの見積り	リスクレベル
×	5
×△、△×	4
○×、×○、△△	3
○△、△○	2
○○	1

リスクへの対応

リスクレベル	リスクへの対応
5	受け入れ不可能なリスクであり、即座に他の方法へ回避する必要がある
4	受け入れ不可能なリスクであり、抜本的な対策を実施する必要がある
3	受け入れ不可能なリスクであり、何らかの対策を実施する必要がある
2	許容可能なリスクであり、現時点では特に対策の必要がない(残留リスクあり)
1	受け入れ可能なリスクであり、対策の必要がない(残留リスクあり)